

令和3年度 独立行政法人国立美術館

年報

Independent Administrative Institution National Museum of Art

ANNUAL REPORT 2021

2021

1 総論	2
2 主要記事	3
3 特徴的な取組	4
4 展覧会活動	
4-1 所蔵作品展	11
4-2 企画展	14
4-3 映画上映等(国立映画アーカイブ)	20
4-4 巡回展	22
4-5 公募団体等への展覧会会場の提供(国立新美術館)	24
5 美術情報の収集・発信活動	
5-1 情報資源発信に向けた取組	25
5-2 図書資料等の収集・公開	26
6 教育普及活動	
6-1 講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等	29
6-2 ボランティアによる活動	29
7 調査研究活動	
7-1 調査研究一覧	31
7-2 調査研究成果の発信	32
8 コレクションの形成・活用・継承	
8-1 作品の収集	34
8-2 所蔵作品の修理・修復	41
8-3 所蔵作品の貸与	41
9 ナショナルセンターとしての活動	
9-1 国内外の美術館等との連携・協力等	42
9-2 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施	44
9-3 キュレーター研修、インターンシップ、博物館実習	44
9-4 アートカード・セット	45
10 決算報告	46
11 会員制度等	47
12 名簿	48

# 1

## 総論

令和3年度は第5期中期目標期間の初年度であり、中期計画及び年度計画に沿って所定の事業を実施した。

### 1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

各館において多彩なジャンルをテーマとした展覧会を開催した。所蔵作品展においては、各館とも、調査研究の成果に基づき、季節に合わせた作品選定、企画展と連動したテーマ展示など時宜をとらえた企画を多く開催した。企画展においては、これまで取り上げられてこなかった分野や新たな作家の発掘を行うなど、意欲的な取組を行った。主要なものとしては、先端技術を用いた体験展示や、現代アーティストによる映像作品を加え、建築の展示の新たな可能性を示した「隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの5原則」(東京国立近代美術館)、茶の湯の文化が広く根付いている金沢という土地柄を意識して、茶の湯のうつわを取り上げた「国立工芸館石川移転開館記念展Ⅲ 近代工芸と茶の湯のうつわ—四季のしつらい—」(国立工芸館)、幕末から明治にかけて日本を訪れた外国人画家とそれに影響を受けた日本人画家の作品を取り上げ、当時の内外で好まれた日本のイメージを考察した「発見された日本の風景 美しかりし明治への旅」(京都国立近代美術館)、世界的に活躍したヴィデオ・アーティストのパイオニア、久保田成子の没後初の大規模個展「Viva Video! 久保田成子展」(国立国際美術館)、これまで取り上げられることのなかった日本のファッション史に焦点を当てた「ファッション イン ジャパン1945-2020—流行と社会」(国立新美術館)等が挙げられる。

国立映画アーカイブにおいては、映画上映会・展覧会を開催した。主要なものとしては、日本映画史を代表する巨匠監督の一人である五所平之助の業績を再評価する上映会「没後40年 映画監督 五所平之助」等が挙げられる。

国立美術館巡回展は国立西洋美術館が担当し、2会場で開催したほか、国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業は、92会場において実施した。

教育普及活動においては、コロナ禍の影響により、対面による多くのイベントが中止となったが、オンラインを活用したレクチャーや参加型プログラムを実施した。そのほか、障がい者と協働しながら新しい美術体験や作品鑑賞の在り方をさぐる「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」等を実施し、幅広い層への鑑賞機会の創出につなげた。

また、日本の芸術創造活動の活性化のため、国立新美術館の公募展示室を美術団体等へ提供したほか、美術に関する情報の拠点としての機能向上のため、所蔵作品等のデジタル化・データベース化等を進めた。

そのほか、来館者に向けて、多言語による各種案内、入場料金・開館時間等の弾力化、ミュージアムショップ・レストラン等の充実など、快適な観覧環境を提供するための様々な取組を継続的に行っている。

### 2 コレクションの形成・活用・継承

所蔵作品の収集については、購入・寄贈ともに、全体として体系的・通史的にバランスのとれたコレクションの充実を図ることができた。パウル・クレー《黄色の中の思考》(東京国立近代美術館)、メル・ボックナー《セオリー・オブ・スカulptチャー(カウンティング)》(国立国際美術館)等を収集した。また、所蔵作品の修理・修復については、外部の機関や修復家等専門家と連携しつつ、緊急性等に応じて適切に実施している。そのほか、国内外の美術館等への所蔵作品の貸与についても、所蔵作品の展示計画、作品保存等に配慮しつつ、可能な限り積極的に取り組んだ。

### 3 ナショナルセンターとしての活動

16年目となる「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、オンラインで実施したほか、インターンシップ、キュレーター研修などの人材育成に取り組んだ。

また、国内外の美術館等との連携・協力等を推進した。日本の美術の国際発信に貢献した事業としては、京都国立近代美術館が、令和元年度に開催した企画展「ドレス・コード?—着る人たちのゲーム」を連邦美術館(ドイツ・ボン)へ巡回したことが特筆される。

### 4 国立西洋美術館本館の活用・公開

「国立西洋美術館前庭の活用・公開の方針とこれに伴う前庭の整備方針」に基づき、防水更新工事に併せて創建時のル・コルビュジエの設計意図を明示するための復原を行い、令和4年度のリニューアルオープンに向けて、準備を進めた。

### 5 国立アトリサーチセンター(仮称)設置に向けて

令和4年度中のセンター開設に向け、センターの正式名称、業務内容、組織体制等に関する方針の検討を行うための設置準備連絡会議を設置するとともに、外部有識者をエグゼクティブ・アドバイザーとして迎え、センターの組織体制及び業務内容について方針を決定した。また、作品活用促進グループ、情報資料グループ、ラーニンググループ、社会連携促進グループ、管理グループの5つのグループからなる設置準備室を設置し、センターの基本理念実現に向けて、各グループの業務内容の具体化を進めた。

# 2

## 主要記事

---

- |      |              |     |   |
|------|--------------|-----|---|
| 令和3年 | 4月           | 1日  | 国立工芸館を通称から正式名称に改める<br>田中正之が国立西洋美術館長に就任<br>島敦彦が国立国際美術館長に就任 |
|      | 4月           | 29日 | 柳原正樹が理事長・京都国立近代美術館長を退任                                    |
|      | 6月           | 30日 | 青木早苗が理事・本部事務局長を退任   |
|      | 7月           | 1日  | 逢坂恵理子が理事長に就任<br>森孝之が理事・本部事務局長に就任<br>福永治が京都国立近代美術館長に就任     |
|      | 8月           | 31日 | 増田正志、山脇佐江子が監事を退任  |
|      | 9月           | 1日  | 田中淳、茶田佳世子が監事に就任   |
|      | 11月29日・12月5日 |     | 令和3年度「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」をオンラインで実施                  |
| 令和4年 | 1月           | 21日 | 国立新美術館が開館15周年を迎える   |
|      | 2月           | 24日 | 第5期中期目標の変更  |
|      | 3月           | 31日 | 五十殿利治が理事を退任   |

# 3

## 特徴的な取組

# 東京国立近代美術館

### 〈本館〉

新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったイベントがあったものの、感染予防に留意しながら「美術館の春まつり」を開催したことをはじめとして、以下のような多様な取組を行った。

所蔵作品展における取組では、前年度に、多様な鑑賞の機会の提供のために手話映像版を制作した映像作品、田中功起《ひとつの陶器を五人の陶芸家を作る（沈黙による試み）》(2013年)について、東京国立近代美術館ウェブサイトで無料配信を行った（視聴者数約2,700人）。同作品は2階所蔵品ギャラリーで展示したほか、会期中に手話映像制作に携わった関係者たちを中心としたトークイベントを開催してオンライン配信を行った。さらに、聾者と難聴者を展示室に直接招待し、美術館のバリアフリーについて当事者の意見を聞くモニター会「東京国立近代美術館の情報保障のあり方を考える会」も開催した。

企画展における取組では、「隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの5原則」において、4K映像、タイムラプス映像、360度VR映像など先端技術を駆使して、隈が設計した建築をリアルに体験できる展示を試み、美術館における建築展の新たな可能性を示した。

また、企業向け有料プログラムを実施し、社員研修等での利用につながった。所蔵品ギャラリー貸切で1社55人、オンライン対話鑑賞で4社191人の利用があった。

そのほか、岸田劉生《田村直臣七十歳記念之像》(1927年)の、黄変したニス除去の様子を修復家の土師広氏の協力のもと動画撮影して配信し、1,300人以上の視聴を得て美術館の重要な活動のひとつである作品の保存修復について一般の理解を深めることができた。



「美術館の春まつり」会場風景  
撮影：三嶋一路



企画展「隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの5原則」会場風景



田中功起《ひとつの陶器を五人の陶芸家を作る（沈黙による試み）》  
「手話とバリアフリー字幕版」(2013/2021年)



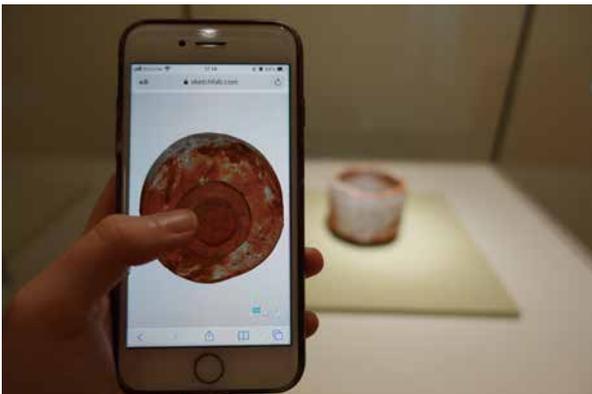
岸田劉生作品の修復 | MOMAT Focus

## 〈国立工芸館〉

新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで実践してきた作品に触れる鑑賞プログラムが実施できない中、「近代工芸と茶の湯のうつわ」展では茶碗15点、「《十二の鷹》と明治の工芸」展では12羽の鷹の3Dデータを、会場に設置したQRコードからスマートフォンにダウンロードできるようにし、手元で360度好きな位置から鑑賞できる試みを行った。とくに茶碗15点においては、カラーデータとモノクロデータの2種類を用意したが、鑑賞者からは造形の様子が端的に見えるモノクロデータに関心が寄せられた。

オンラインによる取組では、こどもの日にあわせて、5歳から小学生以下の子どもを含む家族を対象に「ピカ☆ポコワークショップ」を開催した。実素材を用いた初めてのオンラインによるワークショップであったが、工作を通してワークと鑑賞を家族で楽しめる内容だったことから、今後のデジタルコンテンツ制作を考える機会を得ることができた。

また、展示コーナー「工芸とであう」の高精細3D鑑賞システムに2作品を加え、来館者に対してさらに工芸の新たな鑑賞体験を提供した。



「近代工芸と茶の湯のうつわ」3D鑑賞システム



「《十二の鷹》と明治の工芸」鷹の3Dデータ



ピカ☆ポコワークショップ



「工芸とであう」高精細3D鑑賞システム

# 京都国立近代美術館

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつも、6つの企画展と5回のコレクション展を開催した。

「ピピロッティ・リスト:Your Eye Is My Island—あなたの眼はわたしの島—」や「上野リチ:ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」では、国外の作家やクーリエたちの来日が叶わない中、オンラインでの協働作業を通して展覧会を実現させた。また、前者の展覧会では、入場の際に靴を脱いでもらうなどの感染予防対策を行った上で体験型の展示を遂行し、非常に好評を得た。

工芸を巡るこれまでの京都国立近代美術館の活動を再検証した「モダンクラフトクロニクル—京都国立近代美術館コレクションより—」に際しては、工芸作品約3,300点を掲載した初めての所蔵作品目録を刊行した。令和2年度に購入・受贈した岸田劉生作品42点に既収蔵・寄託作品を加えて展示した「新収蔵記念:岸田劉生と森村・松方コレクション」では、収集と展覧会という2つの活動の具体的連続性を提示することができた。

コレクション展においては、企画展と連動した主題の展示のみならず、陶芸家八木一夫の写真作品に関する調査・研究成果を公開する「キュレトリアル・スタディズ15:八木一夫の写真」を行った。

さらに、新たな美術鑑賞プログラム推進事業である「感覚をひらく」では、アーティストおよび視覚に障害のある方と協働し所蔵作品の新たな鑑賞方法を探求する「眼で聴き、耳で見る | 中村裕太が手さぐる河井寛次郎」と題したプログラムを、「エデュケーション・スタディズ03」として公開した。また文化庁委託事業「令和3年度障害者等による文化芸術活動推進事業」として、京都府・京都市内の文化施設が連携し開催した「CONNECT—つながる・つづく・ひろがる」に参加した。



企画展「ピピロッティ・リスト:Your Eye Is My Island—あなたの眼はわたしの島—」会場風景 撮影:表恒匡 ©Pipilotti Rist, All images courtesy of the artist, Hauser&Wirth and Luhring Augustine



企画展「モダンクラフトクロニクル—京都国立近代美術館コレクションより—」会場風景 撮影:守谷友樹



「CONNECT—つながる・つづく・ひろがる」ワークショップ風景 撮影:衣笠名津美



「エデュケーション・スタディズ03 眼で聴き、耳で見る | 中村裕太が手さぐる河井寛次郎」会場風景 撮影:表恒匡

# 国立映画アーカイブ

上映活動としては、映画監督 五所平之助の没後40年を回顧した上映企画「没後40年 映画監督 五所平之助」や、香港電影資料館所蔵作品を中心に香港映画の歴史を回顧した上映企画「香港映画発展史探究」(福岡市総合図書館、京都国立近代美術館にて巡回上映も行った)、本年度からスタートした新たな上映企画「NFAJコレクション2021秋」及び「NFAJコレクション2022冬」を行った。

展示活動としては、特撮の先駆者円谷英二の出身地である福島県須賀川市との共催のもと、株式会社円谷プロダクションの特別協力も得ながら進められた「生誕120年 円谷英二展」や、アメリカのアート・プロダクション「MONDO」の特別協力のもと、同社より最新のオリジナル映画ポスターの提供を受けて実現した「MONDO 映画ポスターアートの最前線」を開催した。

教育普及事業としては、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」特別記念イベントにて、ビデオテープの映画・映像を大量に失いかねない危機をテーマに、「[緊急フォーラム] マグネティック・テープ・アラート：膨大な磁気テープの映画遺産を失う前にできること」を開催し、磁気テープ映画原版的保管状況や課題、デジタルファイル化と保存について、プレゼンテーションやディスカッションを行った。

令和元年度に1回、令和2年度に2回行ってきた聴覚障がい者向け字幕投影、ヒアリング(磁気) ループシステム、視覚障がい者向け音声ガイド付きのバリアフリー上映を、令和3年度も開催した。バリアフリー上映の機会のさらなる継続と拡充が期待される。

そのほか、国立映画アーカイブ所蔵の歴史的映像を配信により公開する新規事業の一環として、「関東大震災映像デジタルアーカイブ」を国立情報学研究所と共同で開設し、防災の日(9月1日)にあわせて公開を開始した。海外においては、FIAF加盟機関であるシネマテーク・フランセーズと、パリ日本文化会館との共催にて、清水宏監督の大規模回顧展「清水宏監督特集」を開催した。また、第35回チネマ・リトロバート映画祭においても、国立映画アーカイブ所蔵コレクションによる「映像の迷宮：小宮登美次郎コレクション」を共催し、54作品を上映した。

コロナ禍の試みとしては、令和2年度に開設した公式YouTubeでの発信に力点を置き、各展覧会、上映会の広報コンテンツの作成、ユネスコ「世界視聴覚イベント」のビデオレクチャーと記録映像の配信などを行った。また、2002年度に開催した「映画製作専門家養成講座」の採録テキストをPDFにて公開した。



「香港映画発展史探究」  
上映プログラム



ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」特別記念イベント  
「[緊急フォーラム]マグネティック・テープ・アラート：  
膨大な磁気テープの映画遺産を失う前にできること」の様子



WEBサイト「関東大震災映像デジタルアーカイブ」



第35回チネマ・リトロバート映画祭における  
「映像の迷宮：小宮登美次郎コレクション」ジョリー劇場での上映の様子

# 国立西洋美術館

山形美術館と高岡市美術館を会場として、「令和3年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる 山形で考える西洋美術 | 高岡で考える西洋美術——〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき」を開催し、合わせて18,786人が来場した。本展では従来の国立美術館巡回展の形式を全面的に見直し、国立西洋美術館のコレクションの展示にとどまらず、それを開催館の所蔵作品やその他の資料などと並置することで、会場ごとに異なる構成をとった。それにより、山形・高岡両館の所蔵品の価値をあらためて照らし出すとともに、国立西洋美術館の収集活動の歴史を再考する契機ともなった。

また、令和3年度は改修工事のため全館休館となったが、公式SNS (Facebook、Twitter) にて、所蔵作品・建築・景観について定期的に発信したほか、休館中の空調・防水工事、前庭の復原、リニューアルオープン記念展を館長が紹介するメッセージ動画を制作・配信するといった広報的な取組を行い、好評を博した。

さらに、コロナ禍で対面イベントの実施が難しい中、小中学校(島嶼部の学校を含む)のオンライン出張授業や、Zoomでの「オンライン おうちでファミリープログラム」などを実施した。

ドイツ・エッセンのフォルクヴァング美術館では、両館の所蔵品に関する共同研究を行い、展覧会「ルノワール、モネ、ゴーガン——流れる世界のイメージ 松方とオストハウスのコレクション」を開催した。それぞれの美術館の設立の基礎となったカール・エルnst・オストハウスと松方幸次郎の近代美術コレクションの意義の紹介に多大に寄与した。



「令和3年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる高岡で考える西洋美術——〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき」高岡市美術館会場風景



公式YouTubeにて公開したリニューアルオープンに向けた館長メッセージ

**セイビ たてももの 散歩♪**  
立寄るおうちでの5つの楽しみ方

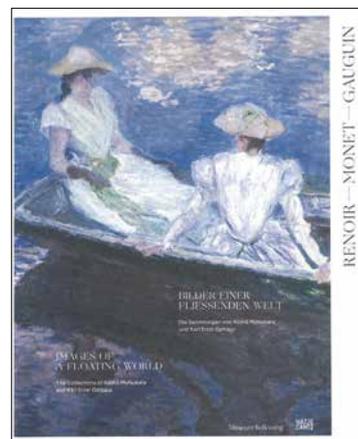
**画面の前に用意するもの**

- ★タテモノテチョウ ×1部  
(リングとじのA5ワークシートセット)
- ★赤いリボン ×1巻
- ★おたのしみ袋 (水色) ×1袋  
※おたのしみ袋はまだ開けないでください！  
当日プログラム中にみんなで一緒に開けます。
- ★えんぴつ ×参加人数分

**今日のおねがい m(\_)\_m**

- ★ご家族でいっしょにお楽しみください！
- ★カメラ・マイクは【オン】、パーソナル背景は【なし】でご参加ください。
- ★こちらからの音や映像は届いていますか？
- ★【今日呼ばれたいチーム名】に変更をお願いします。
- ★録画・録音は【禁止】です。
- ★当館で、今日は記録として【録画】いたします。ご了承ください。

国立西洋美術館 オンライン おうちでファミリープログラム「セイビ たてももの 散歩♪」

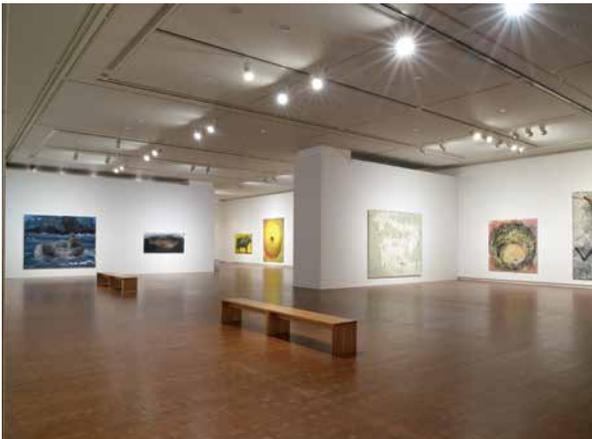


「ルノワール、モネ、ゴーガン——流れる世界のイメージ 松方とオストハウスのコレクション」展カタログ

# 国立国際美術館

展覧会においては、令和2年度に続き「ミケル・バルセロ展」、「コレクション3：見えるものと見えないものあいだ」を実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響のため、4月25日より臨時休館となり、そのまま閉幕することになった。この後、ニューヨークを拠点に活躍したビデオ・アートのパイオニア久保田成子の没後初となる日本では約30年ぶりの個展「Viva Video! 久保田成子展」、木村伊兵衛写真賞を受賞するなど目覚ましい活躍を見せる写真家鷹野隆大の大規模個展「鷹野隆大 毎日写真1999-2021」、ドイツを代表する芸術家の二人展「ボイス+パレルモ」、実験的な創作活動を展開している7名の美術家による展覧会「感覚の領域 今、「経験する」ということ」展を開催した。特に「Viva Video! 久保田成子展」の共同研究は高い評価を受け、第32回倫雅美術奨励賞を受賞し、鷹野隆大は「鷹野隆大 毎日写真1999-2021」の成果により、芸術選奨美術部門文部科学大臣賞を受賞した。また1968年をテーマにした「コレクション 1：1968年展 -新しいパラダイムを求めて-」、生と死をテーマにした「コレクション2：つなぐいのち」を開催し、国立国際美術館のコレクションを紹介した。

教育普及活動では、コロナ禍においてオンラインプログラムを積極的に活用し、国内外の参加者からの満足度も高かった。さらに、視覚(みる)だけに頼ることなく、ほかの感覚器官も存分に働かせることにより、誰でもが鑑賞をはじめとする美術館のアクティビティを楽しめることを目指すユニバーサルプログラム「みる+ (プラス)」を始動し、参加者から高い評価を得た。



「ミケル・バルセロ展」会場風景  
撮影：加藤成文



「鷹野隆大 毎日写真1999-2021」会場風景  
撮影：表恒匡



「感覚の領域 今、「経験する」ということ」会場風景  
撮影：加藤成文



みる+ (プラス)「みてるみる、はなしてるみる、つくってるみる」活動風景

# 国立新美術館

コロナ禍における所蔵館の事情により「マティス 自由なフォルム」が延期、「オルセー美術館展」が中止となったが、レンダーや関係者との綿密な連携により、以下の展覧会を開催することができた。

新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館に伴い途中閉幕となった「佐藤可士和展」に続き開催した、「ファッション イン ジャパン 1945-2020—流行と社会」は、戦後のファッション史を体系的に紹介する前例のない画期的内容だった。「庵野秀明展」は、日本の映像史に残る作家である庵野秀明の活動を総括する展覧会として、ダイナミックな展示構成を実現した。「メトロポリタン美術館展 西洋絵画の500年」では、世界各地の文化遺産を所蔵する同館のヨーロッパ絵画部門から選りすぐられた珠玉の名画65点（うち46点は日本初公開）を展覧した。また、「オルセー美術館展」に代えて急遽開催が決まった「ダミアン・ハースト 桜」展については、イギリスを代表する現代作家ダミアン・ハーストの国内初の大規模な個展を非常に短い準備期間で実現し、〈桜〉のシリーズの作品をとおして、絵画表現の魅力を楽しむ機会を提供した。

館内中央インフォメーションにロンドン在住作家PAN- PROJECTSによる大型インスタレーションを設置したほか、中里唯馬が若手デザイナー育成のために立ち上げた「FASHION FRONTIER PROGRAM」のファイナリストの作品をエントランスホールに展示するなど、パブリックスペースの活用にも新たに取り組んだ。

教育普及事業においても、新型コロナウイルス感染症の影響による事業の中止や延期があったものの、昨年に引き続きオンラインを活用した取組も実施した。人気の「こどもたんけんツアー」は、家族だけでオリエンテーリングする方式を取るなど、感染対策と参加する楽しさを両立できる内容となるよう工夫した。また、「庵野秀明展」では障がい者向けの鑑賞会をオンライン併用で開催し、様々な理由で美術館に来ることが難しい方々への鑑賞機会提供の可能性を広げた。特にOriHimeという遠隔通信ロボットを使った双方向性のあるオンライン鑑賞会の参加者からは、また開催して欲しいという意見があった。

さらに、美術資料室で長年整理作業を続けてきたアーカイブズ資料について、ウェブサイトにも資料群ごとに紹介するページを新たに追加し、積極的に公開していく仕組みを整えた。



「メトロポリタン美術館展 西洋絵画の500年」会場風景  
撮影：上野則宏



「ダミアン・ハースト 桜」会場風景  
Photographed by Masaya Yoshimura © Damien Hirst and Science Ltd. All rights reserved, DACS 2022



PAN- PROJECTS 《The Matter of Facts》展示風景



「こどもたんけんツアー2021～国立新美術館のひみつをさがそう！  
家族でたんけん編～」

# 4

## 展覧会活動

### 4—1 所蔵作品展

所蔵作品展の開催は、国立美術館の基幹となる活動のひとつであり、コロナ禍で大型企画展の開催が困難となる中、その重要性が一層高まっている。各館とも、調査研究の成果に基づき、季節に合わせた作品選定、企画展と連動したテーマ展示など時宜をとらえた企画を多く開催するなど、様々な工夫を凝らして鑑賞意欲や来館動機を高めるとともに、来館者の満足度の向上に努めた。

館名	開催日数	展示替回数	入館者数	満足度 <sup>※1</sup>	
東京国立近代美術館	本館	247	5	154,951	84.5%
	国立工芸館	82	2	11,112	91.0%
京都国立近代美術館	281	5	83,060	72.1%	
国立西洋美術館 <sup>※2</sup>	—	—	—	—	
国立国際美術館	144	3	38,103	66.9%	
計	754	15	287,226	78.6%	

注 新型コロナウイルス感染症対策のため、各館において開催日数が当初予定から変更となった。

※1 「満足度」とは、満足度調査における「良い」以上の回答率を指し、合計欄に記載の値は平均値である。以下同じ。

※2 国立西洋美術館は令和3年度改修工事を行っていたため、所蔵作品展を実施していない。

# 東京国立近代美術館

## 〈本館〉

19世紀末から今日に至る日本の近現代美術の流れを分かりやすく伝えるとともに、部屋ごとにテーマを設けて各時代の美術を新鮮な切り口から提示した。夏の会期は「特別編 ニッポンの名作130年」と銘打ち、東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い海外から訪れる来館者を見込んで、名作を中心とした日本の近代美術を、とりわけアイデンティティの模索という観点から展示構成した。10月から2月にかけては3階の2つの部屋を用いて「純粹美術と宣伝美術」と題した特集を行い、国立工芸館の所蔵するデザイン作品と東京国立近代美術館本館の美術作品との横断的な活用を試みた。



「MOMATコレクション 特別編 ニッポンの名作130年」会場風景



「小特集：純粹美術と宣伝美術」会場風景  
撮影：大谷一郎

## 〈国立工芸館〉

所蔵作品展「たんけん！こども工芸館 ジャングル⇄パラダイス」では、工芸制作の重要なモチーフの1つである自然に着目、伸び広がる生命のパワーに焦点をあてて、長引くコロナ禍で疲弊した方々にエールを送ることを企図し開催した。

所蔵作品展「めぐるアール・ヌーヴォー展 モードのなかの日本工芸とデザイン」では、アール・ヌーヴォーの誕生、またそれに影響を与えた19世紀後半のジャポニスム流行、そして最先端の芸術運動として再び日本へと還流し受容されるまでの流れを150点の工芸・デザイン作品によって紹介した。



「たんけん！こども工芸館」会場風景



「めぐるアール・ヌーヴォー展」会場風景

# 京都国立近代美術館

企画展「発見された日本の風景 美しかりし明治への旅」や「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」、「新収蔵記念：岸田劉生と森村・松方コレクション」に連動した内容の小企画展・テーマ展示を行い、来館者アンケートには好意的な意見が寄せられた。

一例として、「パンリアル美術協会前史：歷程美術協会—山崎隆と山岡良文を中心に—」では、令和2年に解散したパンリアル美術協会の前身とも言うべき、日本画を中心とした革新系美術団体・歷程美術協会の特集展示を行った。また、定期的に行っているキュレトリアル・スタディズでは、「キュレトリアル・スタディズ15：八木一夫の写真」として、八木家の悉皆調査を通じて発見された大量の八木一夫が撮影した写真とともに、陶芸作品を紹介することにより、知られざる八木一夫の世界を紹介した。



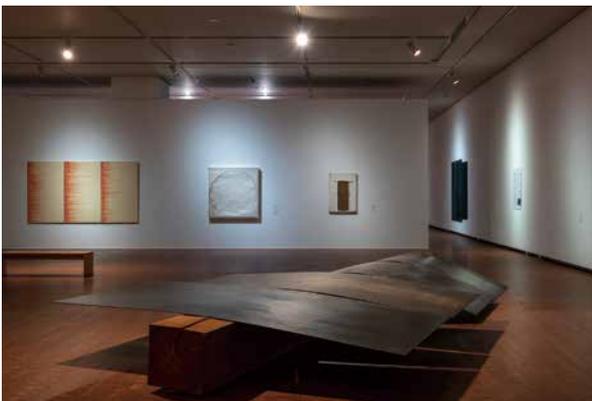
「パンリアル美術協会前史：歷程美術協会—山崎隆と山岡良文を中心に—」会場風景



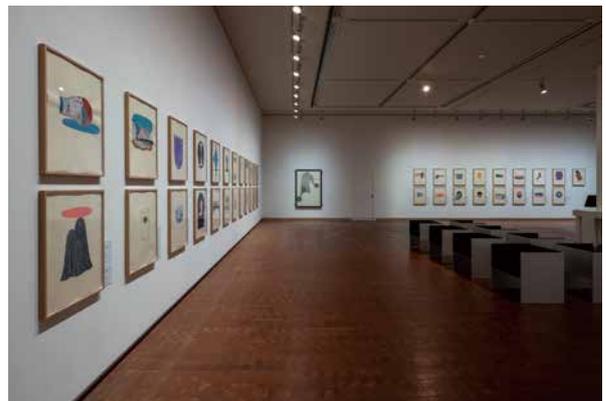
「キュレトリアル・スタディズ15：八木一夫の写真」会場風景

# 国立国際美術館

テーマ性の高い内容としつつ、戦後の現代美術の潮流をできるだけ紹介することを意図した。大きな時代の転換期でもあった1968年をテーマにした「コレクション1：1968年展—新しいパラダイムを求めて—」では、戦後日本の美術動向を「視ることへの問い」「集団の論理」「芸術の解体」と3つのカテゴリーに分け、海外における同時代の動向を顕す作品群とともに紹介した。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という今日的な問題から「生と死」をテーマにした「コレクション2：つなぐいのち」では、人の誕生、成熟、老い、死、そこに流れる時間、記憶と忘却などのちにまつわるテーマをキーで紹介した。映像など現代美術ならではの表現を展示に組み込み、作家のジェンダーバランスにも留意した。



「コレクション1：1968年展—新しいパラダイムを求めて—」会場風景 撮影：福永一夫



「コレクション2：つなぐいのち」会場風景 撮影：福永一夫

## 4—2 企画展

各館において、調査研究の成果に基づき、これまで取り上げられてこなかった分野や新たな作家の発掘を行うなど、意欲的な取組を行った。

コロナ禍により入館者数の減少が続いているが、このような状況下でも、オンラインを活用した展覧会の紹介やイベントの実施に努めることにより、展覧会に足を運ぶことができない人々にも鑑賞の機会を提供した。

館名		実施回数	開催日数	入館者数	満足度
東京国立近代美術館	本館	4	215	200,072	82.6%
	国立工芸館	3	105	29,105	89.1%
京都国立近代美術館		6	226	104,946	81.2%
国立西洋美術館 <sup>※1</sup>		—	—	—	—
国立国際美術館		5	296	55,383	75.0%
国立新美術館		5	239	475,764	94.1%
計		23	1,081	865,270	84.4%

注 新型コロナウイルス感染症対策のため、各館において開催日数が当初予定から変更となった。

※1 国立西洋美術館は令和3年度改修工事を行っていたため、企画展を実施していない。

# 東京国立近代美術館

## 〈本館〉

「隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの5原則」では、国際的に活躍する隈研吾の公共性が高い建築68件に注目して、隈独自の的方法論を五原則の形で抽出した。また、先端技術を用いた体験展示や、現代アーティストによる映像作品を加え、建築の展示の新たな可能性を示した。さらに、模型について撮影可とした結果、展示会の写真をSNSにアップする来館者が多く見られ、広報効果が得られた。隈事務所による特徴的な展示デザインも、SNSを介して展示会の周知に貢献した。

「柳宗悦没後60年記念展 民藝の100年」では、民藝運動を「美術館」「出版」「生産・流通」の観点から近代日本の芸術運動として捉え直すことを試み、豊富な資料・作品を通じて民藝運動の時代背景と現代の民藝ブームの文脈を提示し、歴史的に検証した。本展では豊富な解説を付したことにより、アンケートでは体系的に民藝運動の歴史を知ることができたという好評の声が多数寄せられ、2度来館する鑑賞者も多かった。また、ニコニコ動画やNHKのミュージアムオンラインなど、会場から担当が作品解説をする動画配信を行った。NHKの動画配信は初めての試みであったが、2,000～8,000人ほどが同時接続、累計視聴数は15万超と好評であった。

展示会名	会 期	開催日数	入館者数	共 催 者	満足度
あやしい絵展	(R3.3.23) R3.4.1 ~ R3.4.24	21 (30)	34,221 (49,061)	毎日新聞社、 日本経済新聞社	83.8%
隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの5原則	R3.6.18 ~ R3.9.26	90	72,507	文化庁、独立行政法人 日本芸術文化振興会	78.6%
柳宗悦没後60年記念展 民藝の100年	R3.10.26 ~ R4.2.13	91	79,753	NHK、NHKプロモーション、 毎日新聞社	84.8%
没後50年 鏑木清方展	R4.3.18 ~ R4.3.31 (R4.5. 8)	13 (47)	13,591 (75,341)	毎日新聞社、NHK、 NHKプロモーション	—
計		215	200,072		82.6%

注 ( )内は会期全体の数値を参考として示しており、それぞれの合計には含まない。



企画展「隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの5原則」会場風景  
撮影：木奥恵三



企画展「柳宗悦没後60年記念展 民藝の100年」会場風景  
撮影：木奥恵三

## 〈国立工芸館〉

「国立工芸館石川移転開館記念展Ⅲ 近代工芸と茶の湯のうつわ—四季のしつらい—」は、茶の湯の文化に携わる人口が減少しつつある中、金沢という土地柄を意識して人気の高い近現代の工芸作品における茶の湯のうつわを取り上げることで、茶の湯に関心の低い比較的若い世代への周知を促し、伝統文化の再見に繋げる試みとした。会場では茶の湯のうつわを器種別で展示する場所を設けつつ、素材や分野については分けることなく紹介した。また、出品した茶碗の中から15点を選び、それらを3Dデータ化してスマートフォンで鑑賞できるようにした。手元で360度回転させて、普段見られない角度からも鑑賞できたと好評の声が多数寄せられた。

「国立工芸館石川移転開館1周年記念展《十二の鷹》と明治の工芸—万博出品時代から今日まで 変わりゆく姿—」では、近年各地で開催され人気が高まってきている明治の工芸を扱いながら、コロナ禍での開催となった点を考慮し、困難な時代を乗り越えた明治時代の工芸家の姿に焦点をあてるように努めた。また、《十二の鷹》の展示にあわせて提供した、スマートフォンなどのデバイスで好きな角度で拡大縮小しながら鑑賞できるプログラムは、展示会の冒頭部分エリアに隣接する「工芸とてどう」エリアで、大モニターにも映し出し、スマートフォンを持っていない来館者でも実際に鑑賞できるコーナーを設けた。

展示会名	会 期	開催日数	入館者数	共 催 者	満足度
国立工芸館 石川移転開館記念展Ⅱ うちにこんなあったら展 気になるデザイン×工芸コレ クション	(R3.1.30) R3.4.1 ~ R3.4.15	15 (68)	3,243 (16,344)	—	80.5%
国立工芸館 石川移転開館記念展Ⅲ 近代工芸と茶の湯のうつわ —四季のしつらい—	R3.4.29 ~ R3.7.4	32	5,559	—	97.1%
国立工芸館石川移転 開館1周年記念展 《十二の鷹》と明治の工芸— 万博出品時代から今日まで 変わりゆく姿	R3.10.9 ~ R3.12.12	58	20,303	—	93.3%
計		105	29,105		89.1%

注 ( )内は会期全体の数値を参考として示しており、それぞれの合計には含まない。



「近代工芸と茶の湯のうつわ」会場風景



「《十二の鷹》と明治の工芸」会場風景

# 京都国立近代美術館

「発見された日本の風景 美しかりし明治への旅」は、明治期の英国人を中心とする来日画家や、その影響下の日本人画家など、近代美術史において主流とは見なされてこなかった水彩画家・風景画家たちの作品によって構成した。また、ギャラリーツアーを公式Instagramでライブ配信したほか、講演会（有観客）の様子も公式YouTubeでライブ配信した。これらはともにウェブサイト上でアーカイブ化され、開催後も視聴可能としている。さらに、Twitterで展覧会公式アカウントを開設し情報発信する等情報の拡散を図った。

「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」は、上野リチに関する世界で初めての包括的回顧展であると同時に、これまでほとんど注目されてこなかった20世紀の女性デザイナーの活躍を紹介する展覧会であった。2006年と2009年の作品受贈以降、所蔵作品に関する地道な研究をもとに企画し、また、完成作ではなく草稿・設計図が中心となるデザイン展の展示のあり方を模索した展覧会でもあった。研究成果を国際的に共有するために、図録をバイリンガルで刊行した。

展覧会名	会 期	開催日数	入館者数	共 催 者	満足度
ピピロッティ・リスト： Your Eye Is My Island —あなたの眼はわたしの島—	R3.4.6 ~ R3.6.20	52	21,025	京都新聞	95.8%
モダンクラフトクロニクル —京都国立近代美術館コレクションより—	R3.7.9 ~ R3.8.22	37	9,119	京都新聞	75.0%
発見された日本の風景 美しかりし明治への旅	R3.9.7 ~ R3.10.31	48	17,614	毎日新聞社、 NHK京都放送局	82.0%
上野リチ：ウィーンからきた デザイン・ファンタジー	R3.11.16 ~ R4.1.16	49	36,122	朝日新聞社、 関西テレビ放送	76.2%
新収蔵記念：岸田劉生と 森村・松方コレクション	R4.1.29 ~ R4.3.6	32	19,322	毎日新聞社、京都新聞、 NHK京都放送局	84.5%
サロン! 雅と俗 —京の大家と知られざる 大坂画壇	R4.3.23 ~ R4.3.31 (R4.5.8)	8 (42)	1,744 (11,740)	朝日新聞社	—
計		226	104,946		81.2%

注 ( )内は会期全体の数値を参考として示しており、それぞれの合計には含まない。



企画展「発見された日本の風景 美しかりし明治への旅」会場風景  
撮影：河田憲政



共催展「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」会場風景  
撮影：表恒匡

# 国立国際美術館

「Viva Video! 久保田成子展」は、ニューヨークを拠点に世界的に活躍したビデオ・アートのパイオニア、久保田成子の没後初の大規模個展となった。日本国内では知名度の低い女性作家の再評価を行うとともに、初期ビデオ作品の美術館での再現という技術的な課題にも取り組んだ。本展は美術館連絡協議会での新潟県立近代美術館の提案がもととなった巡回展であり、国立国際美術館を含む3館のキュレーターと、ニューヨーク在住の研究者の4名による共同企画で実施した。

「ボイス+パレルモ」は、第二次世界大戦後のドイツを代表する彫刻家ヨーゼフ・ボイスとその弟子の画家ブリンキー・パレルモの作品を並置して紹介する世界的にも珍しい構成の展覧会となった。ドイツ各地の美術館から協力を得ることで、両芸術家の代表作を出品することが可能となった。また、ボイス及びパレルモの芸術は難解で近寄りがたい懸念があったため、ギャラリーガイドの作成や6回にわたるキュレータートークの実施により、各作品及び展覧会についての理解促進に努めた。

展覧会名	会 期	開催日数	入館者数	共 催 者	満足度
ミケル・バルセロ展	R3.3.20 ~ R3.4.24	21 (31)	3,632 (6,238)	読売新聞社	90.9%
Viva Video! 久保田成子展	R3.6.29 ~ R3.9.23	76	10,041	読売新聞社、 美術館連絡協議会	79.1%
鷹野隆大 毎日写真 1999-2021	R3.6.29 ~ R3.9.23	76	12,059	朝日新聞社	63.1%
ボイス+パレルモ	R3.10.12 ~ R4.1.16	78	16,245	—	82.8%
感覚の領域 今、「経験する」ということ	R4.2.8 ~ R4.3.31 (R4.5.22)	45 (91)	13,406 (28,884)	—	—
計		296	55,383		75.0%

注 ( )内は会期全体の数値を参考として示しており、それぞれの合計には含まない。



「Viva Video! 久保田成子展」会場風景  
撮影：福永一夫



「ボイス+パレルモ」会場風景  
撮影：福永一夫

# 国立新美術館

「ファッション イン ジャパン 1945-2020—流行と社会」は、国内外においてこれまで取り上げられてこなかったテーマである、1920年代から現代までの日本のファッション史を扱い、展覧会の新しい分野の開拓に繋げた。820点の作品の魅力を伝え、その内容を正確に伝えるために、展示デザインを建築家の中原崇志に依頼した。また、株式会社七彩より協力を得て、約250体のマネキンを用いて300点余の服飾作品を展示した。さらに、音声ガイドをデザイナーたちのトークで構成し、普段、直接話を聞くことのできない貴重な言葉を紹介した。

「庵野秀明展」はアニメ・特撮・実写の垣根を超え常にトップランナーとして活躍し続け、国際的にも評価の高い映像作家である庵野秀明のこれまでの活動を、本人の作品だけでなく、作家が影響を受けた作品も含め、多角的な視点で紹介した。ミニチュア模型や特撮スーツなどの立体物は細部まで鑑賞できるようアクリルケースで覆わない展示方法としたところ、アンケートでは高評価が多数寄せられた。

展覧会名	会 期	開催日数	入館者数	共 催 者	満足度
佐藤可士和展	(R3.2.3) R3.4.1 ~ R3.4.24	21 (70)	56,511 (151,466)	SAMURAI、TBSグロウディア、BS-TBS、朝日新聞社、TBSラジオ、TBS	96.3%
ファッション イン ジャパン 1945-2020—流行と社会	R3.6.9 ~ R3.9.6	78	105,110	島根県立石見美術館、読売新聞社、日本テレビ放送網、BS日テレ、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会	88.6%
庵野秀明展	R3.10.1 ~ R3.12.19	70	145,131	朝日新聞社、日本テレビ放送網、日テレイベント、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会	97.5%
メトロポリタン美術館展 西洋絵画の500年	R4.2.9 ~ R4.3.31 (R4.5.30)	44 (97)	125,059 (333,669)	メトロポリタン美術館、日本経済新聞社、テレビ東京、BSテレビ東京、TBS、BS-TBS	—
ダミアン・ハースト 桜	R4.3.2 ~ R4.3.31 (R4.5.23)	26 (73)	43,953 (125,485)	カルティエ現代美術財団、日本経済新聞社	—
計		239	475,764		94.1%

注 ( )内は会期全体の数値を参考として示しており、それぞれの合計には含まない。



「ファッション イン ジャパン 1945-2020—流行と社会」会場風景  
撮影：加藤健



「庵野秀明展」会場風景  
写真提供：庵野秀明展実行委員会

## 4-3 映画上映等(国立映画アーカイブ)

### 上映会

タイトル	会 期	上映日数	上映回数	入館者数	共 催 者	満足度
長瀬記念ホール OZU						
1980年代日本映画 一試行と新生	R3.4.8 ~ R3.4.24 (R3.2.16 ~ R3.3.28)	15 (51)	30 (102)	3,918 (12,313)	—	89.8%
NFAJ 所蔵外国映画選集 2021	R3.6.8 ~ R3.6.23	14	28	2,661	—	85.7%
EUフィルムデーズ2021	R3.6.24 ~ R3.7.18	20	54	3,934	—	89.5%
逝ける映画人を偲んで 2019-2020	R3.7.20 ~ R3.9.5	42	110	8,759	—	89.7%
第43回 びあフィルムフェスティバル	R3.9.11 ~ R3.9.25	12	49	3,558	一般社団法人PFF/ 公益財団法人川喜多 記念映画文化財団/ 公益財団法人ユニ ジャパン	96.2%
サイレントシネマ・デイズ 2021	R3.10.5 ~ R3.10.10	6	12	1,032	—	100.0%
没後40年 映画監督 五所平之助	R3.10.19 ~ R3.11.23	31	67	7,825	—	97.6%
再映:2020年度の上映企 画から「松竹第一主義」 「三船敏郎」「原節子」 「1980年代日本映画」	R3.11.30 ~ R3.12.26	24	48	4,026	—	94.6%
香港映画発展史探究	R4.1.4 ~ R4.1.30	24	55	8,217	—	91.5%
1990年代日本映画—— 躍動する個の時代	R4.2.1 ~ R4.3.6 (R4.4.5 ~ R4.5.1)	30 (24)	60 (54)	8,223 (8,760)	—	90.5%
フランス映画を作った 女性監督たち ——放浪と抵抗の軌跡	R4.3.15 ~ R4.3.27	12	24	3,716	—	100.0%
小ホール						
NFAJコレクション2021 秋	R3.11.5 ~ R3.11.21	9	18	1,131	—	100.0%
NFAJコレクション2022 冬	R4.2.11 ~ R4.2.27	9	18	1,432	—	100.0%
計		248	573	58,432		92.4%

### 展覧会

展覧会名	会 期	日 数	入館者数	共 催 者	満足度
創刊75周年記念 SCREEN を飾ったハリウッド・スターた ち	R3.4.13 ~ R3.8.1	63	2,751	近代映画社	93.9%
生誕120年 円谷英二展	R3.8.17 ~ R3.11.23	70	7,037	須賀川市	94.2%
MONDO 映画ポスターアート の最前線	R3.12.7 ~ R4.3.27	84	7,838	京都国立近代美術館	98.1%
計		217	17,626		95.4%

## 上映会

〈長瀬記念ホール OZU〉



「没後40年 映画監督 五所平之助」  
上映プログラム

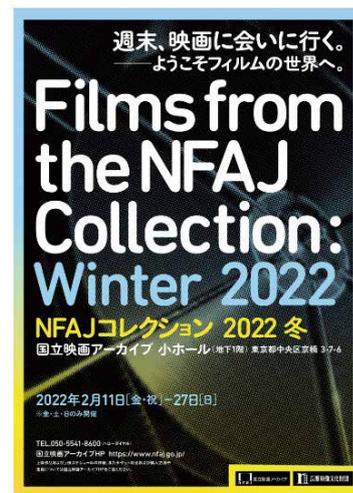


「1990年代日本映画—躍動する個の時代」  
上映プログラム

〈小ホール〉



「NFAJコレクション2021秋」ポスター



「NFAJコレクション2022冬」ポスター

## 展覧会



「生誕120年 円谷英二展」会場風景



常設展「NFAJコレクションでみる 日本映画の歴史」会場風景

## 4—4 巡回展

### 国立美術館巡回展

地方巡回展については、公私立美術館のニーズを踏まえながら、担当する国立美術館の特色をいかした展示を実施している。国立美術館巡回展は、従来の形式を見直し、単に所蔵作品を巡回するのではなく、巡回先美術館の所蔵作品等も活用し、各開催地それぞれの地域性にも関連付けた展覧会を企画して実施し、開催地で高い評価を受けた。

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数	満足度
国立西洋美術館	令和3年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる「山形で考える西洋美術——〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき」	山形美術館	37	15,601	84.0%
	令和3年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる「高岡で考える西洋美術——〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき」	高岡市美術館	42	3,185	88.2%
	計		79	18,786	86.1%



「令和3年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる高岡で考える西洋美術——〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき」高岡市美術館会場風景



「令和3年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる山形で考える西洋美術——〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき」山形美術館会場風景

## 優秀映画鑑賞推進事業

国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性について理解を促進することを目的に、文化庁、教育委員会、日本各地の公共文化施設等と連携・協力して、全国各地で映画の巡回上映を行った。

展覧会名	会場数	開催日数	入館者数	満足度
令和3年度優秀映画鑑賞推進事業	92会場	179(延べ日数)	18,999	92.3%



実施会場：八千代座（熊本県山鹿市）



令和3年度優秀映画鑑賞推進事業  
鑑賞の手引

## 国立映画アーカイブの巡回上映・展示

タイトル	会場数	開催日数	入館者数	満足度
こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション!	2	4	717	—
MoMAK Films 2021*	1	9	249	100.0%
東京国際フォーラム+国立映画アーカイブ 月曜シネサロン&トーク	1	4	615	—
香港映画発展史探究*	2	27	1,463	—
第22回 中之島映像劇場 「映像のアルチザン—松川八洲雄の仕事—」	1	2	266	94.1%
生誕120年 円谷英二展	1	31	1,916	—
計	7	75	5,174	97.2%

※ 「香港映画発展史探究」は「MoMAK Films 2021」の京都会場（1会場、2日間、52人）が含まれるため、合計から重複する数値を除いている。



「東京国際フォーラム+国立映画アーカイブ  
月曜シネサロン&トーク」会場風景



「MoMAK Films 2021」会場風景

## 4—5 公募団体等への展覧会会場の提供(国立新美術館)

国立新美術館においては、日本の芸術創造活動の活性化を推進するため、全国的な活動を行う美術団体等に公募展示室を提供するとともに、美術団体等から寄せられた要望等を参考に広報支援を実施している。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のための臨時休館に伴う中止の他、団体判断による中止や、会期を短縮する団体があった。また、公募展と国立新美術館が開催する企画展の観覧料との相互割引を実施するなど連携協力した取組を行った。

館名	団体数	入館者数
国立新美術館	81団体	485,413

【注1】 団体数は令和3年4月1日時点のもの。

【注2】 会期が年度を跨ぐ場合、当該年度(令和3年4月1日～令和4年3月31日)の入館者数を記載。



第85回 自由美術展



第60回記念 書象展



2021年度 第46回全国伝統的工芸品公募展



国際公募展 美は国境を越えて



第105回 記念 二科展



第84回 新制作展

# 5

## 美術情報の収集・発信活動

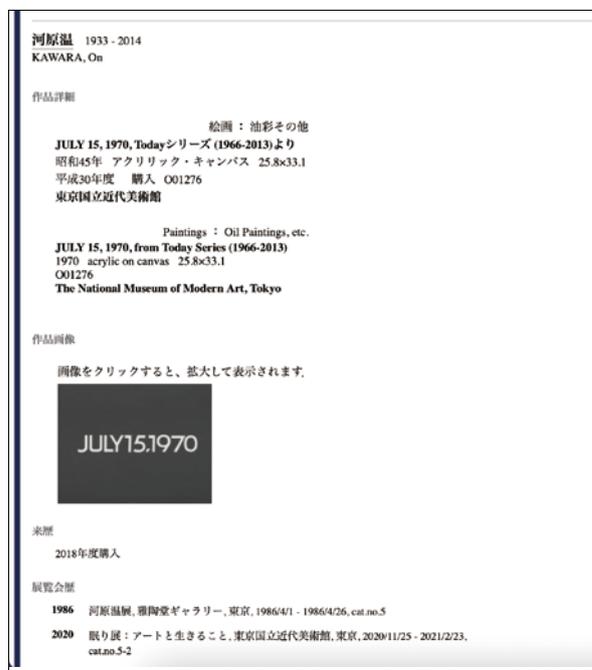
### 5—1 情報資源発信に向けた取組

平成26年6月に策定した「国立美術館のデータベース作成と公開の指針」に基づき、理事長のもとに国立美術館6館の情報担当者により組織する「国立美術館のデータベース作成と公開に関するワーキンググループ」を設置しており、各館の課題の整理と今後の事業について継続的に協議を行ってきた。各館収蔵作品の歴史的データを蓄積する方法(入力仕様)の検討及び国立美術館の公開情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイシステムの開発を進めてきたが、本グループの事業は令和4年度以降、国立アトリエサーチセンター(仮称)に継承されることとなった。

「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」については、新収蔵作品のテキストデータ・画像データを追加するとともに、著作権者情報の整備を行い、画像掲載許諾申請手続を継続した。また、所蔵作品情報の国立国会図書館「ジャパンサーチ」へのデータ連携を行った。



「所蔵作品総合目録検索システム」トップ画像



「所蔵作品総合目録検索システム」画像データ新規登録作品

### ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数(ページビュー)
本部	1,314,110
東京国立近代美術館(本館・国立工芸館)	6,603,633
京都国立近代美術館	2,143,246
国立映画アーカイブ	1,644,836
国立西洋美術館	1,753,561
国立国際美術館※	706,375
国立新美術館	12,007,368
計	26,173,129

※ 国立国際美術館では新サイト構築に伴い、アクセス件数がカウントできない期間があった。

## 所蔵作品データ等のデジタル化

館名	画像データ				テキストデータ				
	デジタル化件数		累計公開件数	公開率	デジタル化件数		累計公開件数	公開率	
	新規	累計			新規	累計			
東京国立近代美術館	本館	394	12,183	7,930	58.2%	120	12,903	12,013	88.2%
	国立工芸館	300	5,075	3,781	94.0%	330	5,690	4,905	121.9% <sup>※1</sup>
京都国立近代美術館		622	9,678	8,853	68.0%	160	16,019	15,397	118.2% <sup>※1</sup>
国立映画アーカイブ		—	—	—	—	7,655	285,826	—	—
国立西洋美術館		59	4,646	4,646	72.7%	190	5,083	5,083	79.5%
国立国際美術館		250	8,667	4,986	61.4%	91	9,447	8,589	105.8% <sup>※1</sup>
計		1,625	40,249	30,196	66.8%	8,546	334,968	45,987	101.8%

【注1】「デジタル化件数」は、各館のローカルシステムにおける画像及びテキストデータの登録件数である（国立映画アーカイブについては、ローカルシステムであるNFADへの映画フィルム及び映画関連資料のテキストデータ登録件数を掲載している）。

【注2】「累計公開件数」は、「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」(<https://search.artmuseums.go.jp/>)における画像及びテキストデータの公開件数である。

【注3】上表のほか、国立映画アーカイブでは「国立映画アーカイブ所蔵映画フィルム検索システム」(<http://nfad.nfaj.go.jp/>)において日本劇映画のテキストデータ 7,734 件を、国立西洋美術館では「国立西洋美術館所蔵作品データベース」(<https://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/>)において作品のテキストデータ 6,249 件及び画像データ 6,336 件を、国立新美術館では「ANZAI フォトアーカイブ」(<https://www.nact.jp/anzai/index.php>)においてアーカイブズ資料のテキストデータ 3,217 件を公開している。

※1 国立工芸館、京都国立近代美術館、国立国際美術館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載している場合があるため、テキストデータの公開率が高くなっている。

## 5—2 図書資料等の収集・公開

館名	収集体数	累計件数	利用者数	
東京国立近代美術館	本館	5,045	154,023	453
	国立工芸館	1,743	31,354	676
京都国立近代美術館	1,452	35,563	3	
国立映画アーカイブ	827	51,793	605	
国立西洋美術館	409	54,433	—	
国立国際美術館	1,462	55,814	3	
国立新美術館	1,798	163,116	3,590	
計	12,736	546,096	5,330	

【注1】上記の図書室等のほか、東京国立近代美術館は本館4階（令和2年度より新型コロナウイルス感染防止の観点から実施していない）、京都国立近代美術館は4階、国立西洋美術館は1階（令和3年度は改修工事に伴い実施していない）、国立国際美術館は地下1階に図録等を閲覧できる情報コーナーを設けている。

【注2】平成30年11月3日より京都国立近代美術館及び国立国際美術館では事前予約制による資料閲覧を開始したため、予約閲覧利用者数を「図書室等利用者数」の欄に記載している。

【注3】新型コロナウイルス感染症対策のため、東京国立近代美術館（本館・国立工芸館）、国立映画アーカイブ、国立新美術館の図書室では事前予約制の導入や入室上限数を定めるなどの対応をとった。国立国際美術館では新型コロナウイルス感染症対策のため資料閲覧を中止していたが、令和3年7月より再開した。

【注4】国立西洋美術館は、令和3年度は改修工事のため全館休館となった。



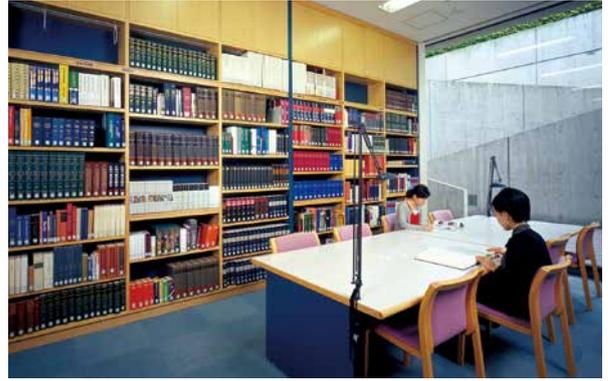
東京国立近代美術館 アートライブラリ



国立工芸館 アートライブラリ



国立映画アーカイブ 図書室



国立西洋美術館 研究資料センター



国立国際美術館 情報コーナー



国立新美術館 アートライブラリー

## JACプロジェクト(国立新美術館)

国立新美術館では、海外では入手が困難な日本の展覧会カタログを海外の日本美術研究の拠点に寄贈するプロジェクトを実施し、日本の美術館による研究成果を発信した。令和3年度は、JACプロジェクトに加えて、ハイデルベルク大学CATS図書館に82件の資料を寄贈した。

寄贈(JACプロジェクト)		寄贈資料(冊)
寄贈先		
フリーア美術館	アーサー・M. サックラー美術館図書館(スミソニアン研究所)(米国)	205
コロンビア大学	エイヴリー建築・美術図書館(米国)	56
ライデン大学	アジア図書館(オランダ)	523
シドニー大学	フィッシャー図書館(オーストラリア)	264
計		1,048



フリーア美術館 アーサー・M・サックラー美術館図書館



コロンビア大学 エイヴリー建築・美術図書館



ライデン大学 アジア図書館



シドニー大学 フィッシャー図書館

# 6

## 教育普及活動

### 6—1 講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等

コロナ禍の影響により、対面による多くのイベントが中止となり、例年より大幅に参加者数が減少しているが、一方でオンラインを活用したレクチャーや参加型プログラムを実施するなど、様々な工夫を凝らし、内容的に質の高いプログラムを提供することにより、鑑賞機会の充実と美術の普及に寄与した。また、十分な安全対策を講じたうえで、館内での鑑賞プログラムや企業研修などを実施した。

さらに、障害者と協働しながら新しい美術館体験や作品鑑賞の在り方をさぐる「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」や「障がい者のための特別鑑賞会」及び「分身ロボットOriHimeによるオンライン鑑賞会」など、幅広い層への鑑賞機会の創出につながる取組を実施した。

館名	実施回数	参加者数	満足度	
東京国立近代美術館	本館	209	2,528	96%
	国立工芸館	55	1,027	96%
京都国立近代美術館	40	1,329	99%	
国立映画アーカイブ	86	5,647	96%	
国立西洋美術館	49	1,310	88%	
国立国際美術館	132	4,734	96%	
国立新美術館	65	8,381	98%	
計	636	24,956	96%	

### 6—2 ボランティアによる活動

団体受入れの増加に伴い教育普及事業の実施におけるボランティアスタッフの重要性が年々高まっており、各館において養成研修を実施するなど、体制整備に努めている。

また、ボランティアスタッフが主体となって直接事業を実施すること等によって、ボランティアスタッフ自身の資質向上や将来の美術館を支える若者の育成にもつながっている。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、ボランティアガイドスタッフによる多くの活動が中止を余儀なくされたが、一部においては、オンラインによる鑑賞プログラムや感染症防止対策を十分に講じたうえで、イベントの運営補助などを行った。

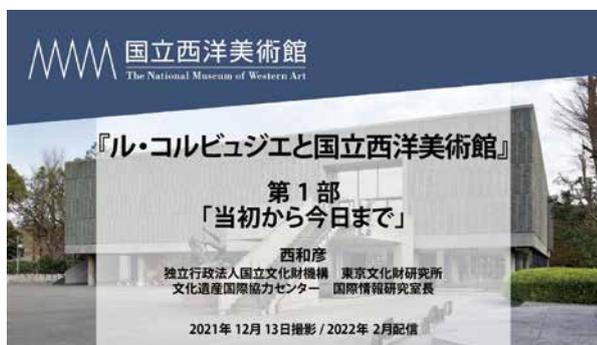
館名	ボランティア登録者数	ボランティア参加者数 (延べ人数)	事業参加者数	
東京国立近代美術館	本館	36	191	894
	国立工芸館	28	78	285
京都国立近代美術館	33	—	—	
国立西洋美術館	60	371	0	
国立国際美術館	0	0	0	
国立新美術館	53	30	253	
計	210	670	1,432	



京都国立近代美術館  
『上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー』だれでもワークショップ『ウィーンのクリスマス市をいろう！』



国立映画アーカイブ  
上映会「香港映画発展史探究」でのトークイベントの様子



国立西洋美術館 オンラインレクチャー  
『ル・コルビュジエと国立西洋美術館』 第1部「当初から今日まで」



国立国際美術館  
企画展「ボイス+パレルモ」ギャラリー・トーク風景



国立新美術館  
「分身ロボットOriHimeによる障がいのある方のためのオンライン鑑賞会」



★カメラ(かけるさん)  
東京国立近代美術館  
未就学児対象「おやこでトークONLINE」で、ギャラリーよりZoomを使って中継するガイドスタッフ



国立工芸館  
ボランティアによる「工芸トークオンライン」



「国立新美術館 建築ツアー2021 歩く・見る・知る美術館」

# 7

## 調査研究活動

### 7—1 調査研究一覧

館名	調査研究件数	
東京国立近代美術館	本館	15
	国立工芸館	18
京都国立近代美術館		19
国立映画アーカイブ		28
国立西洋美術館		12
国立国際美術館		16
国立新美術館		25
計		133

### 科学研究費補助金を受けた調査研究

館名	タイトル	氏名(職名)
東京国立近代美術館	戦後日本の前衛美術のクロス・レファレンス的研究 1945-1955	大谷省吾 (美術課長)
東京国立近代美術館	1990年代から2000年代のロンドンにおける具象絵画に関する研究	榊田倫広 (主任研究員)
東京国立近代美術館 (国立工芸館)	1920-50年代のデザイン／工芸の実践に関する基礎的研究	中尾優衣 (主任研究員)
東京国立近代美術館 (国立映画アーカイブ)	日本における70ミリ劇映画文化の受容とそのイメージの復元	富田美香 (主任研究員)
東京国立近代美術館 (国立映画アーカイブ)	塚田嘉信コレクションを起点に初期映画史を読み直す	入江良郎 (学芸課長)
東京国立近代美術館 (国立映画アーカイブ)	カラー映画フィルムのスペクトル分析に基づく忠実な色再現と褪色補正に関する基盤研究	大傍正規 (主任研究員)
東京国立近代美術館 (国立新美術館)	日本を中心としたアジア諸国の現代美術と美術理論に関する総合研究	米田尚輝 (主任研究員)
東京国立近代美術館 (国立新美術館)	写真・映像の「影響」から見た日本の前衛芸術——昭和戦前期を中心に	谷口英理 (特定研究員)
京都国立近代美術館	郷土資料館のたてられた時代の再検証 —建築はどのように集められ・展示されてきたか—	本橋仁 (特定研究員)
京都国立近代美術館	20世紀後半の現代陶芸の動向についての基礎的研究	宮川智美 (任期付研究員)
国立西洋美術館	美術作品や歴史資料中の膠着材の同定法の構築—方法の改善・発展と実践	高嶋美穂 (特定研究員)
国立西洋美術館	松方コレクション来歴研究とデジタル・カタログ・レゾネ試作	川口雅子 (主任研究員)

注 法人所属研究員が代表研究者として行った研究のみ掲載。

## 7—2 調査研究成果の発信

### 展覧会図録等における発表等

館名		展覧会図録	研究紀要	館ニュース	パンフレット・ガイド等
東京国立近代美術館	本館	3	1	1	6
	国立工芸館	2			2
京都国立近代美術館		4	1	7	6
国立映画アーカイブ		0	0	4	14
国立西洋美術館		1	1	1	4
国立国際美術館		3	0	4	7
国立新美術館		3	1	—	5
計		16	4	17	44

注 「パンフレット・ガイド等」には、小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット、子供向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

### 館ニュース・パンフレット・ガイド等



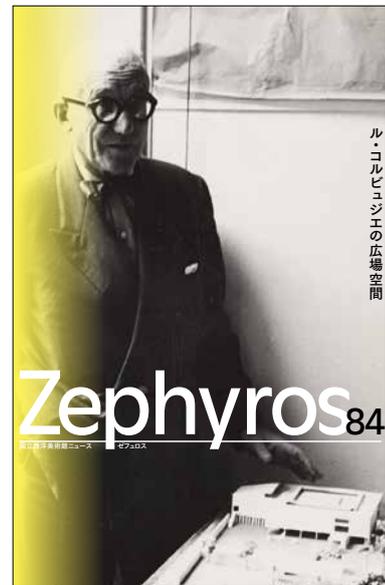
東京国立近代美術館 柳宗悦没後60年記念展  
民藝の100年 ジュニア・セルフガイド



京都国立近代美術館「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」図録



国立映画アーカイブ NFAJニュースレター



国立西洋美術館ニュース「ゼフュロス」第84号



国立国際美術館 鑑賞サポートツール「アクティビティ・ブック」



国立新美術館「ダミアン・ハースト 桜」鑑賞ガイド「ダミアン・ハースト 桜 おはなみのヒント」

## 学会における発表等

館名	学会等発表	雑誌等論文掲載	
東京国立近代美術館	本館	27	49
	国立工芸館	9	33
京都国立近代美術館	6	47	
国立映画アーカイブ	14	13	
国立西洋美術館	14	17	
国立国際美術館	14	20	
国立新美術館	13	16	
計	97	195	

注 館外の学術雑誌等・学会等に限る。

# 8

## コレクションの形成・活用・継承

### 8—1 作品の収集

作品の収集については、購入以外にも大型のコレクションの一括寄贈の受入など寄贈による収集も国立美術館の特徴であり、購入、寄贈ともに、全体として体系的・通史的にバランスのとれたコレクションの充実を図ることができている。美術史的価値の高い作品を収蔵したほか、国内所蔵の作品の海外流出も防ぐことができ、国立の美術館としての役割を果たしていると言える。

#### 収集点数一覧

館名	購入点数	購入金額(千円)	寄贈点数	年度末 所蔵作品数	年度末 寄託作品数	
東京国立近代美術館	本館	8	558,321	60	13,617	252
	国立工芸館	18	85,860	14	4,023	95
京都国立近代美術館	23	139,548	124	13,023	1,009	
国立西洋美術館	4	628,260	2	6,394	249	
国立国際美術館	26	533,775	20	8,115	108	
計	79	1,945,764	220	45,172	1,713	

#### 映画フィルム

館名	購入本数	購入金額(円)	寄贈本数	年度末 所蔵本数	年度末 寄託品本数
国立映画アーカイブ	178	128,063,327	1,985	85,907	19,322

## 主な新収蔵作品

# 東京国立近代美術館

### 〈本館〉

#### 〈購入〉

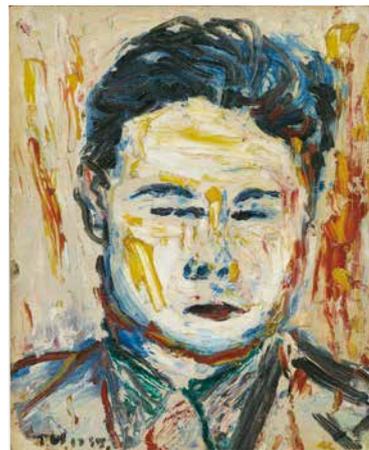
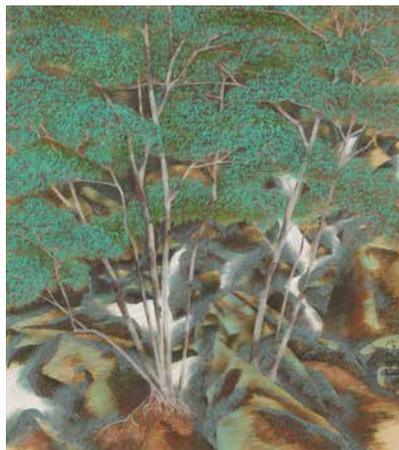
速水御舟《溪泉二図》(1921年)、パウル・クレー《黄色の中の思考》(1937年)を購入した。《溪泉二図》は大正時代の日本画における細密描写の傾向をよく示すものとして展示活用が期待される。《黄色の中の思考》はクレー晩年の傑作のひとつであり、国内の個人が長く秘蔵していたが海外流出を防ぐことができた。すでに収蔵している作品と組み合わせて、二つの世界大戦の間の前衛美術の展開をたどる上で貴重な作例として活用しうる。また、現代の作家として青木野枝、横溝静、オノデラユキら、いずれも現在活躍中の女性作家の作品を収集し、多様化する現代の美術の動向をより広く紹介することが可能となった。

#### 〈寄贈〉

油彩では昭和戦前期に活躍した長谷川利行による肖像画《大庭鉄太郎像》(1937年)を、モデルとなった人物の遺族から寄贈いただいた。モデルの方が制作時の回想談を残しており、貴重な作例である。版画では木口木版画の手法を確立した日和崎尊夫のご遺族から多数の寄贈を受け、その作風の変遷を初期から晩年に至るまでたどることが可能となった。彫刻では辻晋堂と佐藤玄々(朝山)の作品を寄贈いただき、これまで比較的手薄だった昭和(戦中～戦後)の木彫を充実させることができた。とりわけ佐藤玄々の作品は国立工芸館が所蔵する人形作品との比較展示など幅広い活用が見込まれる。写真では戦後を代表する写真家のひとり奈良原一高の作品を、前年度から引き続きご遺族より寄贈いただき、彼の仕事を体系的に紹介することが可能となった。



速水御舟《溪泉二図》1921年



長谷川利行《大庭鉄太郎像》1937年

## 〈国立工芸館〉

### 〈購入〉

北大路魯山人《紅白椿鉢》(1938-40年)を購入した。本作は魯山人芸術における代表的な作品としてあげられる「椿鉢」のなかでも最大のものであり、かつ器形のバランス、コンディションの点でも特に優れている。琳派や乾山焼、「和食」など、さまざまな分野や切り口で日本の文化を紹介できる要素を併せ持っており、国立工芸館の魯山人コレクションの充実に繋がるとともに、国立美術館全体のコレクションの中で、とくに陶芸作品における代表的な位置づけとなりうるという点からも意義のある購入であった。

また、隠崎隆一《備前広口花器》(2012年)や六代清水六兵衛《嵯峨野花瓶》(1952年)、黒田辰秋《乾漆耀貝螺鈿食籠》(1974年)、二十代堆朱楊成《存星白龍文平卓》(1940年)など、各作家の代表作や、竹久夢二によるきわめて珍しい人形作品2点を収蔵したほか、新里明士《光器水指》(2020年)や和田的《白器 ダイ／台》(2018年)など近年高い評価を得ている若い世代の作家にも目配りした幅広い収蔵を進めることができた。

### 〈寄贈〉

各務鑛三《クリスタル硝子花瓶》(制作年不詳)を受贈した。産業と結びついていたガラスの世界を美術工芸の分野に高めた各務の作品は現存例が少なく、国立工芸館のコレクションの欠落部分を補完することができた。また、長浜重太郎の貴重な戦前の作品で新文展出品作である《水だまり和染壁掛》(1941年)を受け入れた。在野での活動が主であった長浜の作品は国立美術館では初めての収蔵であり、同時代の工芸家のネットワークを検証するうえでも貴重な受贈の機会となった。また、備前焼の伝統技法を現代的な装飾文様として捉えなおし独自の作風を展開する伊勢崎紳の第40回日本伝統工芸展奨励賞《備前緋襷台鉢》(1993年)や、九谷焼の伝統的な色絵の世界に新たな色彩世界を築く武腰潤の大作《鶉相對蓮図磁篋》(2021年)、イルカをモチーフにして金工の世界で多彩な展開を見せている宮田亮平が初めてイルカを題材にした《シュプリングエン》(1991年)などの受け入れによって、国立工芸館のコレクションの厚みをさらに増すことができた。



北大路魯山人《紅白椿鉢》1938-40年



黒田辰秋《乾漆耀貝螺鈿食籠》1974年

# 京都国立近代美術館

## 〈購入〉

20世紀アートブックの代表作である、画家でデザイナーのソニア・ドロワー＝テルクと詩人ブレイズ・サンドラールの共作《シベリア横断鉄道とフランスの小さなジャンヌのための散文詩》(1913年)を購入した。本作品の購入によって、所蔵作家のジェンダーバランス改善と既蔵の数多くの挿絵本との比較研究の促進が期待される。また、近代日本漆芸界の巨匠赤塚自得の《桜蒔絵料紙硯箱》(明治から大正期)を購入し、漆芸作品コレクションの充実化を図った。

他に特徴的な購入作品として、1970年以降所在不明であった浅井忠の代表作《御宿海岸》(1897年頃)が挙げられる。浅井忠は近代洋画黎明期の重要作家で京都に縁がある人物にもかかわらず、これまで油彩画の所蔵が1点のみであったが、この購入によって、展示や貸出でのより柔軟な対応が可能になった。さらに、漆芸・木工作家黒田辰秋の初期代表作《螺鈿象嵌菖蒲紋様手筈》(1938年)を含む7点を、黒田ゆかりの所蔵家より購入した。京都国立近代美術館では、2024年に黒田生誕100年記念回顧展開催を予定しており、これら購入作品は寄贈作品とともに、その充実化に寄与するものと期待される。また、令和3年度の「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」展開催に際し、その展示のために関係作品を購入した。

## 〈寄贈〉

令和3年度は多彩な工芸作品を数多く受贈した。中でも特筆すべきは、初期の代表作《友禅着物「光」》(1967年)を含む、森口邦彦の1960年代から90年代にかけての代表作35点を受贈したことである。将来的には2000年以降の代表作や下絵類も収蔵し、手描き友禅の世界に新風を吹き込んだ森口の全創作過程を見渡せるコレクション形成を目指す。また前衛陶芸家団体「走泥社」メンバーの田辺彩子及び川上力三の作品計3点は、令和5年度開催予定の「走泥社」展準備が契機となって実現した受贈である。さらに、作家・デザイナーという富本憲吉の仕事の2つの方向性比較研究に必須となる資料、「八坂工芸」のために制作した量産作品見本一式を受贈した。

文人画家富岡鉄斎のご遺族からは、正宗得三郎《富岡鉄斎像》(1925年)ほか、これまで未蔵だった洋画家による作品を受贈した。またチェコ文学研究者大平陽一氏より、長年の研究の過程で収集された1920年代を中心とする「チェコ・アヴァンギャルドのブックデザイン」計352点を受贈した。ここにはカレル・タイゲなど当時のチェコスロヴァキアを代表するデザイナーによる書籍・雑誌、彼らに影響を与えたロシア・アヴァンギャルドの書籍・雑誌が含まれている。この受贈は、昨年度開催した「キュレトリアル・スタディズ13: チェコ・ブックデザインの実験場1920s-1930s 大阪中之島美術館のコレクションより」が契機となった。



赤塚自得《桜蒔絵料紙硯箱》明治・大正時代



浅井忠《御宿海岸》1897年頃

# 国立映画アーカイブ

## 〈購入〉

上映企画に伴う映画フィルム等の購入に関しては、近年逝去された映画人の代表的作品を追悼上映する企画「逝ける映画人を偲んで2019-2020」に関連して、『日本殉情伝 おかしなふたり ものくるほしきひとびとの群』(大林宣彦監督、1988年)等26作品、28本のフィルムと、『共喰い』(青山真治監督、2013年)等5作品のデジタル上映用及び保存用素材を購入した。また、1974年の回顧上映以来の47年ぶりの開催となった「没後40年 映画監督 五所平之助」に関連して、1974年当時収集した4本のカラー映画『白い牙』(1960年)『猟銃』(1961年)『雲がちぎれる時』(1961年)『100万人の娘たち』(1963年)(いずれも褪色の進行した16mmフィルム)に代わり、新たに35mmの上映用プリントを購入した。1990年代の日本映画を回顧する企画「1990年代日本映画——躍動する個の時代」では、『M/OTHER』(諏訪敦彦監督、1999年)等23作品のフィルムと、『閉所嗜好症』(和田淳子監督、1993年)等3作品のデジタル上映用及び保存用素材を購入することで、1990年代を代表するヒット作や新しい才能による重要作などに関して、コレクションの欠落を補うことができた。

## 〈受贈〉

映画フィルムの寄贈受け入れ本数は1,985本、117件であった。小栗康平監督のデビュー作『泥の河』(1981年)や、鈴木清順監督の『カポネ大いに泣く』(1985年)など、1980年代以降の独立系プロダクション作品の原版寄贈を受けたことが大きな特徴である。また、世界4大アニメーション映画祭でグランプリを受賞した唯一のアニメーション映画作家・山村浩二の高校生時代の習作をはじめ、主要なフィルム作品全ての原版類等を受贈し、重要な現代作家のコレクションを築くことができた。さらに茨城県土浦市に所在する曹洞宗寶珠山神龍寺より、『関東大震大火實況』(1923年)、『利根川情話 枯れすゝき』(1922年頃)、『実写 霞ヶ浦航空隊』(1924年)等の可燃性フィルムを受贈した。特に『関東大震大火實況』は、令和3年度に開設した国立映画アーカイブの配信サイト「関東大震災映像デジタルアーカイブ」で公開した動画の主素材として使用される等、意義のある受贈であった。また、初代中村鴈治郎(1860年-1935年)に関連するプライベートフィルム51本の受贈により、戦前の大阪歌舞伎を今に伝える重要なコレクションを形成することができた。



『関東大震大火實況』(白井茂撮影1923年)より  
火災炎上中の神田方面を望む映像



『狐火 [本朝廿四季]』(1929年)より  
初代中村鴈治郎

# 国立西洋美術館

## 〈購入〉

フィンランドの近代絵画を代表するアクセリ・ガッレン＝カッレラの油彩画《ケイテレ湖》(1906年)と、フランスの彫刻家カミーユ・クローデルのブロンズ彫刻《ペルセウスとゴルゴーン》(1898年)等を購入した。

《ケイテレ湖》は近年評価が高まっている北欧絵画の代表作のひとつであり、2008年度に購入したデンマークの画家ヴィルヘルム・ハンマースホイの作品とともに、北欧の近代美術のコレクションの充実に寄与するものである。クローデルの作品は、ロダンの助手も務めた同時代の女性彫刻家として、ロダンの世界的コレクションを有する館として以前より取得に向けて取り組んでいたものであり、重要な追加となる。また館のコレクションにおける女性芸術家の系譜を鑑みるうえでも、有効な活用が期待される。2点の購入によって、国立西洋美術館の近代美術コレクションには一層の深みもたらされたと言える。

## 〈寄贈〉

受贈したフェルナンド・デ・ラ・トーレ・ファルファンの書籍『セビーリャ大聖堂におけるカスティージャ王フェルナンド3世列聖の祝祭』(1671年)は17世紀スペインの版画による挿絵入り豪華本であり、当時の宗教的祝祭の記録としても貴重である。館のスペイン美術コレクションを歴史的に説明しうることから、活用が期待される。

もう1点の受贈作品であるエミール・オルリックの版画《化粧》(1902年)は西洋人が20世紀初頭の日本の風俗を描いたものであり、東西交流の証拠作品として、またジャポニズムの一例として、館のコレクションの重要な追加となる。



アクセリ・ガッレン＝カッレラ《ケイテレ湖》1906年



カミーユ・クローデル《ペルセウスとゴルゴーン》  
1898年(1905-06年鑄造)

# 国立国際美術館

## 〈購入〉

メル・ボックナー《セオリー・オブ・スカルプチャー（カウンティング）& プリマー》（1969-1973年）、ロバート・ゴバー《無題》（1992年）、マーク・マンダース《乾いた土の頭部》（2015-2016年）を購入した。とりわけボックナーは、コンセプチュアル・アート初期の重要な作例であり、作家の代表作が日本国内に収蔵されたことは大きな意義がある。ゴバー、そしてマンダースもそれぞれの代表的な作例であり、ゴバーは国内では初の美術館への収蔵となり、活用が見込まれる。また、個展を開催した鷹野隆大の作品を17点収蔵し、まとまったかたちで展覧することが可能となった。中堅の映像作家として世界的にも活躍を始めている山城知佳子の映像作品も4点収蔵することができた。これにより、国立国際美術館にこれまで収蔵されていなかった沖縄の現代美術の文脈を形成する端緒となった。

## 〈寄贈〉

郭仁植の作品8点寄贈を受けた（1点購入）。郭はもの派の先駆的な役割を果たした重要な作家であるが、もの派の作家たちと比較すると十分な調査と評価がなされてこなかった。近年、韓国では大規模な回顧展が開かれるなど、再評価の機運が高まっており、代表作を複数点収蔵できたことは大変意義深い。

Image:imageのエフェメラ類の寄贈は、関西の前衛運動の継続的な調査の過程で寄贈が決まったものである。パフォーマンスが主体となった当時の表現活動の中、実態がないために歴史に残ってこなかった重要な活動を、これによって跡付けることが可能となる。植松奎二のドローイングは、既に国立国際美術館に収蔵されている彫刻作品の素描である。植松は、彫刻、写真、素描といった異なる手段で表現する作家であり、今回の寄贈によって作家の全体像を補完することが可能となる。



マーク・マンダース《乾いた土の頭部》2015-16年  
©Mark Manders / Courtesy of Zeno X Gallery, Antwerp and Gallery Koyanagi, Tokyo 撮影：福永一夫



山城知佳子《あなたの声は私の喉を通った》2009年  
©Chikako Yamashiro, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

## 8—2 所蔵作品の修理・修復

館名		点数	主な修復作品
東京国立近代美術館	本館	22	岸田劉生《田村直臣七十歳記念之像》(1927年)
	国立工芸館	33	「世界のポスター展」(国立近代美術館、1953年) 出品ポスターほか
京都国立近代美術館		10	上野リチ《中国・穆稜[風物画卷]》(1940年頃)、 アーシル・ゴーキー《バースデイ・グリーンティング》(1931年) ほか
国立西洋美術館		263	クロード・モネ《睡蓮》(1916年)
国立国際美術館		50	鶴岡政男《ひと(1)》(1960年)、O JUN《オチルコ》(2003年)

(単位:本)

館名	修復作品総数	デジタル復元	ノイズリダクション等	不燃化作業	映画フィルム洗浄	主な修復フィルム
国立映画アーカイブ	61	2	6	18	35	『鬼あざみ』[部分](衣笠貞之助監督、1927年)、 『狂った一頁』(衣笠貞之助監督、1926年)

## 8—3 所蔵作品の貸与

### 美術作品の貸与等

館名	貸出		特別観覧		
	件数	点数	件数	点数	
東京国立近代美術館	本館	56	275	194	402
	国立工芸館	13	154	26	40
京都国立近代美術館		50	548	73	169
国立西洋美術館		6	379	67	73
国立国際美術館		13	137	40	119
計		138	1,493	400	803

### 写真作品観覧制度(プリントスタディ)

東京国立近代美術館では所蔵する写真作品を、申込制によって個別に観覧できる制度を実施した。

館名	利用件数	観覧者数	観覧作品数
東京国立近代美術館	0	0	0

注 新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

### 映画フィルムの貸与等

館名	貸出		特別映写観覧		複製利用	
	件数	本数	件数	本数	件数	本数
国立映画アーカイブ	61	155	48	127	44	61

### 映画関連資料の貸与等

館名	貸出		特別観覧	
	件数	点数	件数	点数
国立映画アーカイブ	5	138	47	593

# 9

## ナショナルセンターとしての活動

### 9—1 国内外の美術館等との連携・協力等

#### 国内外の研究者の招へいによるシンポジウムの開催等

館名	国内外の研究者の招へい等に基づく セミナー・シンポジウムの開催回数	
東京国立近代美術館	本館	1
	国立工芸館	0
京都国立近代美術館		2
国立映画アーカイブ		1
国立西洋美術館		0
国立国際美術館		7
国立新美術館		8
計		19

#### 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

京都国立近代美術館において、令和元年度に開催した企画展「ドレス・コード？—着る人たちのゲーム」を連邦美術館（ドイツ・ボン）へ巡回した。ドイツへの巡回にあたり、出品作品を一部変更、新たにドイツ人写真家等の作品を追加し、全120点で構成した。展示デザインには日本展に引き続き建築家の元木大輔を起用し、展覧会のコンセプトを十全に伝えることができた。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、二度の延期を余儀なくされたが、国内外の関係者が粘り強く準備に取り組み、無事に実現できた。

国立映画アーカイブでは、シネマテーク・フランセーズ、パリ日本文化会館（共にフランス・パリ）において両機関との共催により「清水宏監督特集」を実施した。現存する清水宏監督作品を海外で初めて網羅的に紹介した大規模回顧展であり、51作品（うち国立映画アーカイブ所蔵32作品）を上映した。本上映会は、令和2年度に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、延期となったものである。コロナ禍で開催時間や定員に制限があるなかで、パリ日本文化会館のキュレーターによる清水宏についての講演の開催や、無声の『港の日本娘』（1933年）での尺八も交えた生演奏など特色ある上映会となり、好評を博すことができた。また、ジョリー劇場（イタリア・ボローニャ）においてフォンダツィオーネ・チネティカ・ディ・ボローニャとの共催により第35回チネマ・リトロバート映画祭「映像の迷宮：小宮登美次郎コレクション」を実施した。本映画祭は、令和2年度に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和3年度に延期となったものである。コロナ禍であるが、予定通り国立映画アーカイブ所蔵の小宮コレクションから54作品を紹介する大規模特集を実現できた。

## 企画展・上映会等の共同主催と共同研究

館名		共同主催件数	共同研究件数
東京国立近代美術館	本館	3	3
	国立工芸館	0	1
京都国立近代美術館		3	6
国立映画アーカイブ		12	12
国立西洋美術館		1	1
国立国際美術館		2	2
国立新美術館		4	4
計		25	29

## 国際交流

館名		招へい者数	来館者数
国立美術館本部事務局		0	0
東京国立近代美術館	本館	0	0
	国立工芸館	0	0
京都国立近代美術館		0	0
国立映画アーカイブ		0	0
国立西洋美術館		0	2
国立国際美術館		1	0
国立新美術館		1	7
計		2	9

注 招へい者とはシンポジウム・講演会を開催するために海外から招いた者を指す。来館者とは、海外からの来賓及び賓客を指す。

## 9—2 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施

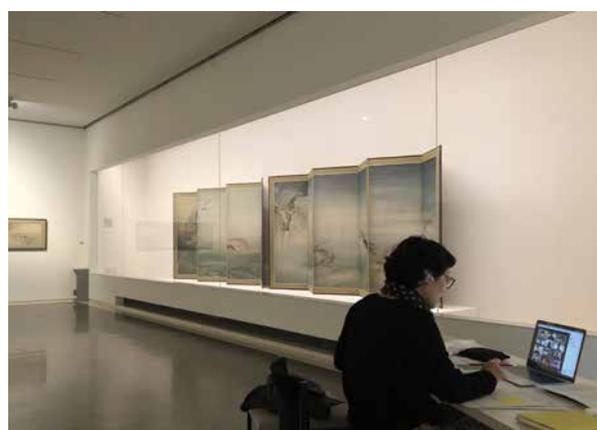
16年目となる「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は、オンラインで実施した。本研修では、オンライン教材「鑑賞素材BOX」を用いての対話鑑賞やグループワークの実施という、初めてのオンライン双方向での開催となった。修了者数は87名で、本研修の記録はウェブサイトで公開している。

オンライン研修の内容は、ウェブサイト上においても、より多くの情報を伝えるとともに、視認性の向上に努めた。

- ・修了者数：87名（小学校教諭21名、中学校教諭18名、高等学校教諭9名、特別支援学校教諭1名、指導主事16名、学芸員22名）
- ・会 期：令和3年11月29日（月）、12月5日（日）
- ・参加者の満足度：96.6%（目標：98.8%）
- ・Web報告書：<http://www2.artmuseums.go.jp/sdk2021/index.html>



オンライン配信での会場案内風景



オンラインでのグループワークの様子

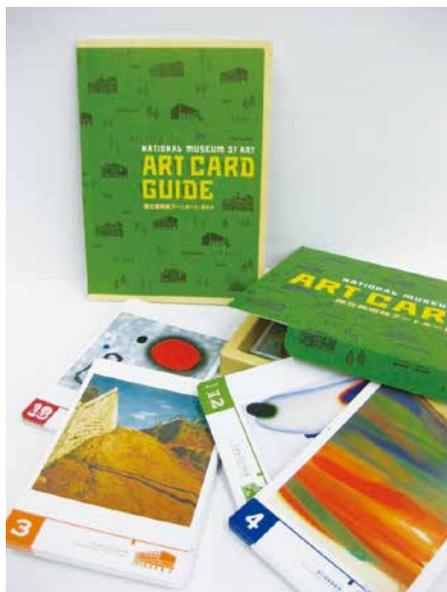
## 9—3 キュレーター研修、インターンシップ、博物館実習

公私立美術館の学芸担当職員の専門知識の向上等を図ることを目的とした「キュレーター研修」を実施した。また、インターンシップ、博物館実習を実施した。

館 名		キュレーター研修 受入人数	インターンシップ 受入数	博物館実習 受入数
東京国立近代美術館	本館	3	9	—
	国立工芸館	0	0	—
京都国立近代美術館		2	2	—
国立映画アーカイブ		—	1	12
国立西洋美術館		0	0	—
国立国際美術館		1	8	—
国立新美術館		2	7	—
計		8	27	12

## 9-4 アートカード・セット

全国の学校に対し国立美術館の所蔵作品による鑑賞教材「国立美術館アートカード・セット」の貸出しを行った。(東京国立近代美術館(本館)19件139セット、京都国立近代美術館3件18セット、国立西洋美術館1件10セット、国立国際美術館8件65セット)



アートカード・セット

# 10

## 決算報告

(単位：百万円)

	予算金額	決算金額	増△減額
収入			
運営費交付金	8,511	8,511	—
展示事業等収入	1,102	817	△285
施設整備費補助金	100	1,290	1,190
文化芸術振興費補助金	—	55	55
受託収入	—	207	207
寄附金収入	650	715	65
計	10,364	11,595	1,231
支出			
運営事業費	9,614	7,344	2,269
人件費	1,176	1,188	△12
一般管理費	625	1,001	△376
事業部門経費	7,812	5,155	2,657
うち美術振興事業費	3,253	2,497	756
うちナショナルコレクション 形成・継承事業費	3,213	2,162	1,051
うちナショナルセンター事業費	1,347	497	850
施設整備費	100	1,290	△1,190
文化芸術振興費	—	55	△55
受託事業費	—	207	△207
寄附金事業費	650	564	86
計	10,364	9,460	904
収支差引	0	2,135	2,135

注 金額は単位未満四捨五入のため、合計が合致しない場合がある。

# 11

## 会員制度等

### 友の会

館名	一般会員	一般会員 (学生)	特別会員	団体会員	法人会員	年度末会員数 計
東京国立近代美術館	406					406

### 賛助会員

館名	個人会員	維持会員	特別会員	一般会員	プレミアム会員	年度末会員数 計
東京国立近代美術館	127	20	8		0	155
京都国立近代美術館			2	5		7
国立国際美術館	6		3		1(2口)	10

### MOMAT支援サークル

館名	プラチナパートナー	ゴールドパートナー	シルバーパートナー	年度末会員数 計
東京国立近代美術館	4社	3社	8社	15社

### キャンパスメンバーズ

国立美術館全体の事業として平成18年12月から実施している、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については、令和3年度は2校の新規加盟があり、退会校6校と合算すると前年度比4校の減少となった。

平成29年度から実施している外部媒体(マイナビ「学生の窓口」)を活用した広報では、「美術館でファッションコーデを考えてみた。」と題し、美術館の新たな楽しみ方として、3名の大学生に東京国立近代美術館のMOMATコレクションから気に入った作品を選び、その作品に合わせたファッションコーデを考えてもらうという記事を掲載し、学生に対する広報活動を引き続き強化した。同記事は、令和2年のページビュー数7,672回を上回る8,769回閲覧された。

入会校数	利用者数
98学校・法人	50,417

キャンパスメンバーズ特設サイトURL:<https://www.campusmembers.jp/>

# 12

## 名簿

令和4年3月31日現在

役員等	理事長・国立新美術館長 理事・本部事務局長 理事 監事 監事 東京国立近代美術館長 京都国立近代美術館長 国立映画アーカイブ館長 国立西洋美術館長 国立国際美術館長	逢坂 惠理子 森 孝之 五十殿 利治 田中 淳 茶田 佳世子 加藤 敬 福永 治 岡島 尚志 田中 正之 島 敦彦
運営委員	今橋 映子(東京大学大学院総合文化研究科教授) 垣内 恵美子(政策研究大学院大学教授) 坂村 健(INIAD(東洋大学情報連携学部)学部長、 YRPユビキタス・ネットワーク研究所長、東京大学名誉教授) 篠原 資明(高松市美術館アートアドバイザー) 島田 康寛(前神戸市立小磯記念美術館長) 島谷 弘幸(独立行政法人国立文化財機構理事長、九州国立博物館長) 白石 和己(式年遷宮記念神宮美術館長) 住友 吉左衛門(公益財団法人住友財団理事長) 妹島 和世(建築家、妹島和世建築設計事務所代表取締役) 田端 一恵(社会福祉法人グロー法人事務局芸術文化部部長) 富田 章(東京ステーションギャラリー館長) 仲町 啓子(実践女子大学教授、秋田県立近代美術館長) 樋田 豊次郎(東京都庭園美術館館長) 平野 共余子(映画史家) 藤田 治彦(大阪大学名誉教授、神戸芸術工科大学大学院教授) 松本 正道(アテネ・フランセ文化事業株式会社代表取締役) 森迫 清貴(京都工芸繊維大学長) 矢ヶ崎 紀子(東京女子大学教授)	
外部評価委員	岡田 温司(京都大学名誉教授、京都精華大学大学院特任教授) 熊倉 純子(東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授) 黒田 亮子(美術史家) 深井 晃子(公益財団法人京都服飾文化研究財団理事/名誉キュレーター) 宮澤 誠一(日本大学芸術学部映画学科非常勤講師)	

### 独立行政法人国立美術館本部事務局

東京国立近代美術館内  
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1  
TEL: 03-3214-2561  
FAX: 03-2314-2577  
URL: <http://www.artmuseums.go.jp/>

### 令和3年度各種報告書等リンク先

- ・令和3年度国立美術館業務実績報告書 [http://www.artmuseums.go.jp/03/03030157\\_1.pdf](http://www.artmuseums.go.jp/03/03030157_1.pdf)
- ・令和3年度国立美術館外部評価報告書 <http://www.artmuseums.go.jp/03/03030158.pdf>

